

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城南中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

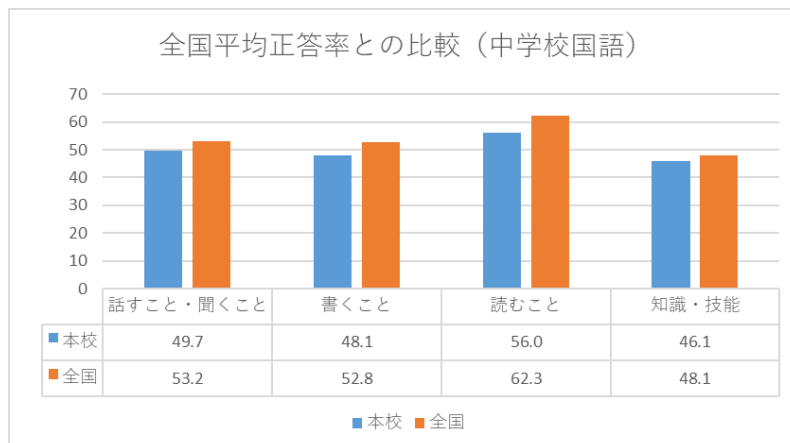
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学・理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

すべての内容項目について全国平均を下回る結果でした。各内容領域についてもいずれも 3.5～6.3 ポイント下回っています。また、無解答率を見ると、「理由を筋道立てて説明する問題」など、多くの問題で全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるか」や「事象や行為を表す語彙について理解できているか」を問う問題に関して正答率が全国平均を上回っています（それぞれ +1.8 ポイント、+5.0 ポイント）。また、「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わる表現を工夫することができるか」や「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるか」を問う問題に関して、全国平均に近い結果（それぞれ -2.7 ポイント、-3.1 ポイント）となっています。授業の中で、資料や本文の内容を丁寧に読み取る活動を行ったり、家庭学習の一環として漢字の書き取りに取り組んだりしている成果が表れていると考えられます。

一方で、課題は、「読むこと」の正答率（-6.3 ポイント）が低いことです。文章の文面だけを追うのではなく、批判する読み方をして、吟味することを意識させることが重要であると考えています。また、「記述式」の問題の無解答率が全国に比べ 6.5 ポイントほど高いため、日々の授業で自分の考えをまとめたり、文章の内容をまとめたりすることを通して、書くことによって表現する力を付けていく必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

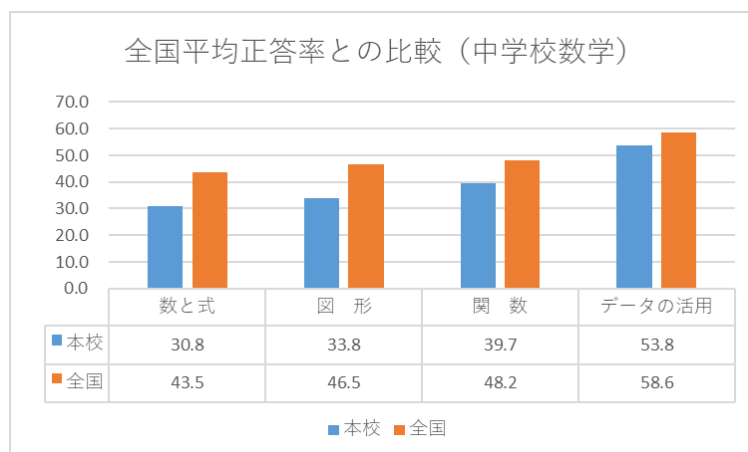
【学校では】

- 生徒が主体的に学び合い、互いに高め合う授業になるよう、発問や授業の流れなどを工夫します。
- 学習課題に沿って文章を適切に読み取れるように、ノートやワークシートなどを工夫します。
- 授業の中で情報を整理したり、目的や条件に沿って書いたりする場面を作ります。
自分の考えや根拠を明確にして書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、慣用句や四字熟語などの語句の学習を積み重ね、語彙力を付けます。

【ご家庭では】

- 文章の要点や意図を捉える練習として、新聞やインターネットニュースのコラムに書いてある内容について家庭で話し合う機会を作ってください。
- 漢字練習の課題を根気よく丁寧にしてほしいと思います。漢字仮名交じり文の日本語を、確実に読み取るためには漢字の習得が欠かせません。繰り返し書いて覚えることが大切です。
- 「いつ、だれが、どこで、何を、どうした（5W1H）」などが分かるような話し方をするよう心がけてください。

2 数学



(1) 結果

すべての内容領域で全国平均正答率を下回っています。（-4.8 ポイントから-12.7 ポイント）

また、無解答率を見ると、記述により説明する問題で全国平均より高くなっています。（+14.4 ポイント）

(2) 成果と課題

今回の調査では、「事柄が成り立たないことを説明する場面で、反例をあげることができるか」を問う問題において、正答率が全国平均正答率を 5.8 ポイント上回っていました。これまでの授業で練習問題や復習問題に多く取り組んだり、定期的に小テストを実施したりしたことによって、基本的な知識・技能が着実に定着していることが考えられます。

一方で、「数と式」領域では、中学 2 年生で学習する「連続する 3 の倍数の和」の問題が出題されましたが、正答率が全国平均を 12.0 ポイント下回り、無回答率が 39.9 ポイント（全国比：+15.0 ポイント）と、全国平均を大きく上回る結果となっていました。文字式を用いて説明させる問題において、苦手意識が高く、取り組もうとしなかった生徒が 40% 近くいることが分かりました。また、どの内容領域についても、図やグラフを正しく読み取り、数や式、文字、数学的な用語を使いながら数学的な見方や考え方を働かせて説明をする問題に課題が見られ、無解答率も全国平均に比べ、ほとんどの問題で高くなっていました。日々の授業で、問題文を正しく読み取り、数学的な用語を活用して説明する取り組みが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

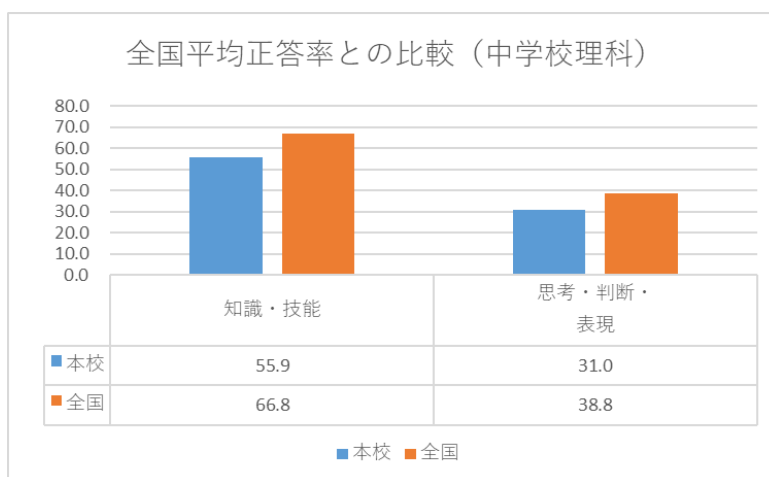
- 生徒が主体的に学び、互いに高め合うことができるよう、学習活動を工夫します。
- 授業内容が本当に理解できているか、「振り返り」を大切に授業展開を行います。
- 自分の考えを、数や式、言葉を使って説明したり、筋道を立てて論理的に書いたりする機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 基礎基本となる問題が確実にできるよう、定期的な小テストを多く取り入れます。

【ご家庭では】

- 授業で取り扱った内容を、再度、ワークなどを活用して家庭で取り組んでほしいと思います。学習内容を早い段階で振り返ることで知識や技能の定着が高まることが期待されます。ぜひ励ましの言葉かけをお願いします。
- 一人一台端末を活用し、現在学習している内容だけでなく、既習事項についての復習も行い、つまづきのある単元や内容領域の把握・克服に取り組んでほしいと思います。
- 日常生活の場面で、数学が用いられている事象（例：建造物から形の名称や面積、体積を考えること等）を見つけ、既習事項や学習内容と関係づけながら考えてみてほしいと思います。

■ 調査結果及び考察

3 理 科



(1) 結 果

「知識・技能」で10.9ポイント、「思考・判断・表現」で7.8ポイント、正答率が全国平均を下回る結果となりました。また、無回答率についても、ほとんどの問題で全国平均より高くなっていました。（最大+12.8ポイント）

(2) 成果と課題

今回の調査では、「呼吸を行う生物について」を問う問題において、正答率が全国平均正答率とほぼ同じ結果となりました（-1.7ポイント）。また、「理科の授業の内容はよくわかりますか。」の質問に対して肯定的な回答をした割合が81.6ポイントと全国を10.2ポイント上回り、理科が得意で、授業内容がよく理解できている生徒が多いことがうかがえます。

一方で、元素記号に関する知識を問われた問題では、正答率が全国平均を28.2ポイント下回り、無回答率が21.3ポイント（全国比：+12.8ポイント）と、全国平均を大きく上回る結果となっていました。2年生の「物質の表し方」で学習したことを、3年生でイオンを習うときに再度学ぶなど、繰り返し学習をさせたり、小テストなどをこまめに行ったりして、基礎基本となる知識を身に付けさせる必要があると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 生徒が主体的に学び、互いに高め合うことができるよう、学習活動を工夫します。
- 基礎基本となる知識が確実に身に付くよう、定期的な小テストを多く取り入れます。
- 得られた知識を用いて、科学的に説明する力が身に付くよう、『学び合い』の中で表現させる活動を多く設定します。
- 観察や実験を継続して、理科が好きな生徒が今後も持続できるようにします。

【ご家庭では】

- その日に学習したことの振り返りを確実に行ってください。
- 授業プリントやテストなどで間違ったところを復習することで、学力は向上します。
- 理科を身近に感じられるように、ニュース等を話題にしたり、共有したりすることで、学習内容と自分の生活を結びつけられるようになり、さらに興味関心がわくと思います。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などにも、ぜひお時間があるときに一緒に行ってみてください。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的な回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	88.4%	91.2%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	87.7%	81.0%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	95.9%	92.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	98.6%	95.9%
人が困っているときは、進んで助けていますか。	91.9%	90.9%
将来の夢や目標を持っていますか。	66.7%	67.5%

朝食については全国平均をわずかに下回っています。起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切に、習慣として身に付けていくことは大切なことです。また、いじめはいけないことだと言えたり、人が困っているときに助けたりすることができる生徒が全国平均を上回り、規範意識が高い生徒が多いことがうかがえました。一方で、将来の夢や目標に関する項目については、全国平均をやや下回っているため、今後、高校進学や就職を考える中で、自分自身を見つめ、キャリア形成につなげていく必要性を感じました。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
○学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。		
「3時間以上」	6.8%	8.5%
「2時間以上、3時間より少ない」	9.5%	18.7%
「全くしない」	20.4%	15.4%

家庭学習については平日に2時間以上の学習に取り組んでいる生徒が全国平均を下回っていました。また、全く家庭学習をしていない生徒もいるようです。授業の復習は、定期的に、繰り返すことで、知識の定着につながり、学力が向上します。ノルティーを活用し、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣の大切さについても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

○今年度もノルティーを活用して、学習の計画や中長期的なスケジュールの把握に努めさせています。学校では、家庭学習の必要性や大切さについて伝え、自分で計画的に学習に取り組めるよう授業や家庭でどのような学習をすればよいか話をしていきます。

【ご家庭では】

○学校日より、学年日より、授業プリント等をご覧になり、お子様と学校に関する会話をし、コミュニケーションを取っていただきたいと思います。

○短期的な目標と中長期的な目標をもって生活できるように励ましの声かけなどを今後もお願いします。また、情報通信機器を使っている時間が長すぎる生徒も見られます。使い方については、ご家庭でしっかりと話し合い、各家庭のルールを決めていただくようにお願いします。